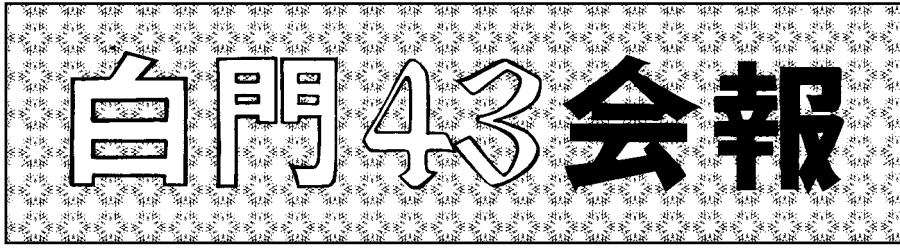


白門43会ホームページアドレス

http://www.gakuinkai.com/hakumon43/

投稿は

hakumon43@gakuinkai.com



発行所 中央大学白門43会

発行人 龍門海行

編集人 清水 正

電話 090-3699-9580

メール tds_shimizu@yahoo.co.jp

卒業50周年に向けスタート 新春の集いを開く

平成29年の「新春の集い」が2月4日(土)に開かれた。3月なみの穏やかなこの日、恒例の散策会は鶯谷駅に集合後、上野公園界隈を約2時間堪能。徳川將軍家の墓地、寛永寺本堂(根本中堂)、黒田清輝記念館、森鷗外の旧居、横山大観記念館などをたぐり楽しみ。懇親会は午後4時から東天紅・鳳凰の間にて70人ほどの参加で開催された。

龍門会長は開会挨拶で来年は卒業50周年を迎え、記念

行事を行うと宣言、早々と50周年記念行事に向けてスタートした。久しぶり参加者3人の挨拶に続く乾杯の発声は京都から参加の蓮沼良直さん(南禅寺派宗務総長)。9つのテーブルの各指定席には墨田・業平の「みりん堂」製の「白門43会前餅」が並び、可愛い鳥の絵でデザインされた袋に入れられたお煎餅はおいしい東天紅の中国料理にアクセントを加えた。余興はピエロのラッキー・村田正和さん(昭和41年中大

卒業50周年の記念行事について

卒業50周年の記念行事について

私達白門43会の会員は昭和43年(1968年)3月に卒業、以来来年でちょうど満50年を迎えることになりました。半世紀という激動の時代を乗り越えて頑張ってきたまじりました。このたびプロジェクトチームを結成し、50年目という節目の年に相応しい記念行事を計画しております。全国の会員の皆様どうぞ奮って参加ください。

また同期卒業のかたで白門43会に未入会のかたにもぜひ声をかけていただきお誘いあわせのうえ、ご参加いただきましたき多くの仲間と卒業50年を祝おうと思います。同期生は全員が仲間です。どうぞ積極的にご参加ください。

白門43会 卒業50周年記念行事(予定)

寄席・都内散策

2017年9月 予定

記念式典・新春の集い

2018年 2月17日(土)

秋の2泊旅行会(明治村、伊勢神宮、志摩ほか)

2017年 10月30日~11月1日

初春歌舞伎観劇(歌舞伎座)

2018年 1月15日(月)

宝塚歌劇鑑賞(東京宝塚劇場)

2018年 3月9日(金)

クルーズ(船旅)

2018年6月~11月の間

いずれも現在での予定であり、詳細は決定次第あらためてお知らせいたします。



白門43会の集い

卒)による大道芸。ジャグリングや南京玉簾の素晴らしい演技、アシスタントの松浦さんや、数人の会員が交互に壇にあがって見よう見まねの競演は充分にわれわれの目を楽しませた。約2時間にとどまる宴は楽しく、にぎやかに続けられ、多数の会員の懇談する姿が見られた。

お開きの歌は今回は「青い山脈」。「草のみどり」の前年に発表された国民的歌謡とも言われる歌

を星野さんのリードにより参加者全員が肩を組み斉唱、再会を誓いあった。今年の後半から卒業50周年の諸行事がスタートすることになる。(清水 正)

上野界隈見て歩記

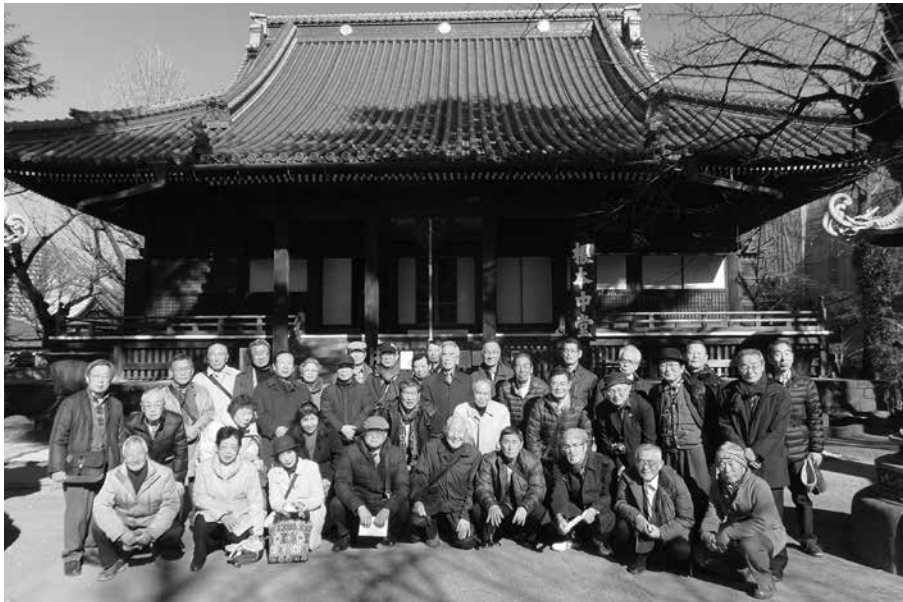
審村 剛

鶯谷駅南口改札口に到着したのは午後一時十分前頃か、そこにはもう既に初老の紳士諸氏が大勢参集し、それぞれ親しげに和やかな触れ合いが交わられておりました。丁度時に今回の主催幹事より今回の見所や諸注意、又台東、上野、鶯谷の名前の由来についての解説があり、その後ゆっくり寛永寺界隈の散策コースに向け初老の大集団が動き出しました。それにしても今回四十数名の参加をみたことは今迄なかったこと。皆々様老いて増々盛んなこと大慶至極。

ここから先が清水坂。細い下り坂がクネクネ続く。暗闇の別名あり。車も多く行き交い、気をつけないと危険。ちょうど坂の中段か、道端に弘法大師所縁の湧水がチロチロ。湧き続けて何年になるのだろう。坂を下り終えて平坦な通りに六龍鉱泉。東京には黒湯鉱泉が多く、そのうちのつが、誰も入らず。やはり銭湯は時間を気にせずゆっくりしてられるのが良い。

上田邸、東京への修学旅行で、こんな感じの旅館に泊まった記憶があるが、今から五十年も昔。ここは昭和四十年築。これも相当古い。暫く歩いて隅外湯。都内第二号の天然温泉、森鷗外の旧宅が保存されており、庭からの旧居の眺めがいい。さすが文豪の終のすみからしい。何名かこの中の温泉で疲れを癒したが、小生はバス。さあ、今日の見どころ、あと二カ所。と思うと急に元気が出てきて、足が早やまる。

横山大観記念館には希望者のみ入館。有料、既に閉館時間は過ぎていたが館内は混んでいる。二階から眺める不忍池と上野の森の遠景は絶景。さすがに日本画の巨匠。東京では、めったにない素晴らしい風景の中に居る構えていた。展示品も多く、いつでも見応えがある場所であつたと思ひます。以上が、同級生と共に楽しくすごした上野界隈見て歩き雑感でした。



寛永寺の根本中堂にて

総会・懇親会(7月3日)

白門43会、二〇一七年(平成二九年)の総会・講演会・懇親会は七月三日(月)に東京・上野精養軒で開かれます。はじめての試みとして今までの土曜日から月曜日に変更、開催いたします。講演会では会員の田中宏司さんが「熱血指導がなぜバワハラに」という興味深いお話をしていただきます。今回、この会報送付に際し、返信葉書をお封じいたしました。総会ご出席のご都合を6月15日までにお知らせください。多数の会員の皆様のご来場をお待ちしております。

別荘地我孫子と

景観豊かな手賀沼

16年11月2日(水)千葉県我孫子市にて手賀沼と我孫子の町と手賀沼を楽しむ懇親会が開かれ16人の会員が参加した。近隣に住む2人の会員が下調べをさせていただいたお陰で私たちは十分に景観、散策、会食を楽しむことが出来た。

6.5平方キロの手賀沼はその形状や平均水深(0.86メートル)からもわかるようにその昔は利根川の一部であったところ。その後湖沼として独立、一時は水が汚れ大きな問題となったことも。いまではすっかりと水清く、約1時間を遊覧船の船長の説明を聞きながらゆっくりと楽しんだ。船長の話は楽しく、またツール(古地図、写真など)をうまく駆使して頂いたことよって「手賀沼」がかなり身近に感じることであった。

上の満足感をもたらし。

午後の散策にはガイドのお世話になった。というのはいこ我孫子は数多くの文人墨客が別荘をもったところ。柔道の嘉納治五郎、文人の志賀直哉、ジャーナリストの杉村楚人冠(中大の先輩)ほか多くのひとの足跡が残り、別荘の実物も多数保存されている。日本の歯科医学の重鎮といわれる血脇守之助の碑も見ることができた。



「お世話になった船長を囲んで記念撮影」

自己紹介や今日(案内いただいたガイドさんのお話。ガイドさんからはきれいな花の絵ハガキが参加者にプレゼントされた。

(清水 正)

20周年記念誌を発行

白門43会は15年、結成20周年を迎えたが、これを記念して「白門43会20周年記念誌」が16年8月に発行され、全会員に配布された。目をひくのは会員町田與曾彦さんの表紙絵「忍野富士」、忍野から眺める雪をかぶった富士山が43会の

20周年を祝ってくれているようだ。A4版、64ページで、43会のあゆみをカラー写真4ページ、年表4ページで紹介している。全国にわたる会員56人の寄稿は20周年の良い思い出として残ることだろう。多くの会員の皆様が原稿、

写真等を寄稿していただいた。末長く読み物として、またアルバムとして見ていただきたいと思っっている。



新入会員のご紹介

次の方々が新たに入会されました。名簿に追加記載してください。

- 五島幸雄 法学部法律学科 東京都杉並区在住
- 長田康道 商学部会計学科 千葉県市川市在住

第37回ゴルフ・コンペを 開催

2016年12月14日水曜日、第37回白門43会ゴルフ大会が千葉県袖ヶ浦市のカメリアヒルズカントリークラブで行われました。このゴルフ場は

過去の首相や安倍首相もプレーする有名なコースです。JR浜松町駅から迎えのクラブバスで7時30分少し前に出発、総勢16名はアクアラ



現地でおおよそ50分後にはイン経由で到着しました。ゴルフ場に到着しました。

現地で布施さんが合流して17名5組でスタート。

午前中は小雨が残りましたが、午後からは曇りながら薄日が差す穏やかなコンディションの中、皆余力を振り絞って健闘しました。

結果は優勝 緑川勉さん、準優勝 島田恭輔さん、3位 富田秀雄さんでした。特に緑川さんは前回(6月)に続き2連覇。ス

白門43会役員

- | | | | | | | | |
|------|-------|-----|-------|------|-------|-------|-------|
| 会長 | 龍門海行 | 副会長 | 浅葉美枝子 | 小塚正人 | 富田秀雄 | 森沢正瑞 | 矢崎勝 |
| 幹事 | 清水正 | 幹事 | 立岩正義 | 安藤 磐 | 伊藤正敏 | 歌代雄七 | 梅津久光 |
| 監査 | 岡田孝子 | 幹事 | 相澤一代 | 大石恒雄 | 加藤正純 | 金子典雄 | 倉田隆次 |
| 地方幹事 | 西村輝雄 | 幹事 | 小泉 勲 | 古賀忠夫 | 後沢正昭 | 佐藤史郎 | 佐藤忠治 |
| | 井出勝正 | 幹事 | 高梨明宏 | 島田恭輔 | 清水利夫 | 鈴木征夫 | 清家春夫 |
| | 八東一郎 | 幹事 | 中村武照 | 館野勝彦 | 田中宏司 | 鶴田 健 | 中里圭井子 |
| | 光常武二 | 幹事 | 布施博資 | 正野建樹 | 長谷川裕子 | 原 健 | 原田六生 |
| | 坂東 雅道 | 幹事 | 伊藤 雅正 | 山田修三 | 町田與曾彦 | 松浦 靖 | 三沢 充男 |
| | 坂東 雅正 | 幹事 | 伊藤 雅正 | 山田修三 | 町田與曾彦 | 宮本 常子 | 森川 忠 |
| | 坂東 雅正 | 幹事 | 伊藤 雅正 | 山田修三 | 町田與曾彦 | 吉田 信男 | 龍山 俊暁 |
| | 坂東 雅正 | 幹事 | 伊藤 雅正 | 山田修三 | 町田與曾彦 | 山下 英明 | |

コーアはクロス84(アウト42・イン42)と見事なものでした。

すめの浜松町の店で大いに盛り上がりました。幹事役の富田さん、金子さんお疲れ様でした！

矢崎 勝

会員時報オンラインについて

中央大学学会では卒業生の親睦活動を支援するため「会員時報」を年に数回発行し、会員に送付しています。この「会員時報」の内容をオンラインで簡単に見ることが出来ますのでどうぞご利用ください。学会全体と他の年次支部、地域支部、職域支部などの活動状況がよくわかります。

アドレス <http://www2chuo-u.ac.jp/gakuinkai/jiho/>



比叡山・高野山と共に日本三大霊山に数えられる恐山は、貞観四年(862)に慈覚大師によって開山され、天台宗の修験道場から、十四世紀に曹洞宗円通寺となった古刹です。前から古刹恐山に、一度、拝塔したいと思つていま

霊山恐山 菩提寺回マン

高橋良洋

比叡山・高野山と共に日本三大霊山に数えられる恐山は、貞観四年(862)に慈覚大師によって開山され、天台宗の修験道場から、十四世紀に曹洞宗円通寺となった古刹です。前から古刹恐山に、一度、拝塔したいと思つていま

七堂伽藍を配置する下北半島

きつての名刹でした。蓮華八枚の弁を示す釜伏山・大尺山・小尺山・北国山・屏風山・剣の山・地藏山・鶏頭山の八峰に囲まれた霊山でした。山中には、血の池・剣の山・畜生道・極楽浜と賽の河原(極楽浄土を思わせる白砂とエメラルドグリーン

三途の川と太鼓橋(霊界と俗界との堺・三途の川にかかる赤い橋。罪人は渡るこ

四十九日の後、梵天(万有の根源を神格化した護法神)に諭され、「初転法輪」の旅に出ます。この現世の「陽の世界」と黄泉の冥土「陰の世界」との間に、「中陰」の四十九日の期間を設け、「中陰の供養」の大切さを説いて

酒造の「寒立馬」(寒さに耐える下北の馬)を頂きました。酔酩して話が弾み、会場むつぐランドホテルで、「居酒屋トリオ」が誕生し、秋には、東京の居酒屋名店巡りをする事になり、大きな旅の収穫でした。一度は、吉備の国にお招きして、地酒の銘酒、金賞受賞の山田錦

者の成佛を願う)があり、生きながら地獄の縮図が見られます。奪衣婆と懸衣翁(人が亡くなって三途の川を渡った後、奪衣婆に身ぐるみをはがされ、懸衣翁が衣領の枝に懸け生前の罪の重さを推量し、六道のいずれかが決められる)の珍しい像がありました。

松林寺十二世 高橋良洋合掌

三溪園の紅葉と中華街

16年11月28日(月) 明治の富豪・原富太郎(雅号が三溪)氏が財力を投入、全国から17棟の建物を集め大きな池を中心に木々と美しいコントラストの漂う「三溪園」で懇親会が開かれた。建物を作ったのではなく「集めた」ところがポイントであり、例えば丘にそびえる三重塔は旧燈明寺のものであったとのこと。ちょうど紅葉の見ごろの季節であり、根岸、横浜、桜木町などの各駅からバスの便も良いため23人の会員が

より2組に別れ邸内のさまざまな建物を堪能した。茶に造詣が深かったため茶室や茶席が多いのも特徴である。見学後はバスで中華街へ移動、「酔楼」で懇親会が開かれ、各地から集まった会員で楽し



い宴。思い思いの話に時が経つのも忘れるほどであった。(ホームページに詳述あり)

平成27年度白門43会収支決算書

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(収入の部)

科目	予算額	決算額	差異	摘要
前年度繰越金	1,413,269	1,413,269	0	
会費収入	10,000	96,000	86,000	年会費5→1人、終身0→6人
懇親会参加費(総会)	640,000	696,000	56,000	出席者80→87人、会費8,000円
寄付金収入	50,000	62,000	12,000	総会祝い金50,000円及び会員寄付金12,000円
懇親会参加費(新年会)	560,000	608,000	48,000	出席者70→76人、会費8,000円
日帰り旅行参加費	0	312,000	312,000	会費12,000円/人、26人
その他の収入	10,000	76,065	66,065	(注)1
合計	2,683,269	3,263,334	580,065	

(支出の部)

科目	予算額	決算額	差異	摘要
総会費	844,000	813,932	-30,068	9,355円/人(昨年12,070円/人)
新年会費	660,000	623,596	-36,404	8,209円/人(昨年7,716円/人)
日帰り旅行費	0	321,407	321,407	対旅行会社支払い他
20周年記念事業費	0	65,044	65,044	案内関係費他
その他の支出	150,000	94,098	-55,902	(注)2
次年度繰越金	1,029,269	1,345,257	315,988	
合計	2,683,269	3,263,334	580,065	

(注) 1. その他の収入 76,065円の内訳
支部活動支援補助金50,000円、講師料一部補助金20,000円、会費納入協力金6,000円、その他65円
2. その他の支出 94,098円の内訳
祝い金(対白門38,40,42,44&45合同会)40,000円、広告掲載料30,000円、年次支部協議会会費10,000円
消耗品代他14,098円
3. 次年度繰越金 1,345,257円の内訳
ゆうちょ銀行の振替受払(払込金の受払口座)23,230円、定期貯金 1,000,000円及び通常貯金 173,760円
並びにみずほ銀行の普通預金 148,267円
4. ちなみに平成7年(初年)度末の「次年度繰越金」は、5,569,994円である。(「白門43会会報」第2号)

活動報告

〈白門43会の動き〉

2016年(平成28年)

- 10月 5日(水) 役員会、懇親会(駿河台記念館、咲くら)
- 15日(土) 箱根駅伝予選会応援(昭和記念公園)
- 23日(日) 第25回ホームカミングデー(多摩キャンパス)
- 11月 2日(水) 我孫子、手賀沼の散策会(千葉県我孫子市)
- 28日(月) 横浜・三溪園の紅葉散策、懇親会(横浜市、三溪園、中華街)
- 12月 4日(日) 蓮沼良直さんの講演会「元気になる仏教」(東京国立博物館)
- 7日(水) 役員会、忘年会(駿河台記念館、太一)
- 14日(水) 第37回白門43会ゴルフコンペ(カメラアヒルズC.C.)

2017年(平成29年)

- 2月 1日(水) 卒業50年記念プロジェクト、役員会(駿河台記念館、太一)
- 4日(土) 新春の集い 上野公園の散策、懇親会(東天紅上野店)
- 28日(火) 卒業50年記念プロジェクト委員会(駿河台記念館)
- 4月 5日(水) 卒業50年記念プロジェクト委員会(駿河台記念館)
- 役員会(駿河台記念館、げんない)
- 7日(金) お花見会(市川市・国府台)
- 24日(月) カラオケ同好会(秋葉原・パセラ)

書評

「鳶の葉通信・日々を味わう喜び」

喜多村鳶枝さん著 円窓社発行

会員・喜多村鳶枝さんは「風の音―墓から自然葬へ―」の著者。こゝ息はわれわれの後輩であり、講談師の田辺凌鶴師である。

喜多村さんは指匠師の仕事が続けるなかで87年から友人・知人へ毎月1枚のはがき「鳶の葉通信」を送り続け、いまでは393号を数えるまでになっている。今回そのうちの第1号から第200号までをまと

めて発行したものがこの大著トとしてとらえる。市販されているどんな読み物よりもはるかに面白い。ものによつてはあつさり、またものによつては詳しい知識をとりこ

文章は夫婦、親子、親戚などの人の輪、また環境、町、国とあらゆるものをターゲット



そして何よりも大事なことは30年間にわたって1回も欠かすことなく発信を続けてきたことの大切さである。第20号の中で俳句恩師の個人誌600号を称賛されてい

るが「鳶の葉通信」ももう400号が目前である。今日も「鳶の葉通信」が届いた。飾らない文章で、毎月きちんと届いている。まさにわれわれ現役以上のパワー

※参考書「風の音(と)の」墓から自然葬へ 喜多村鳶枝著 雲母書房刊 清水 正

書評

「渋沢栄一に学ぶ論語と算盤の経営」

田中宏司さん著 (株) 同友館発行

会員の田中宏司さんは母校で二つの学部を卒業、私たちがより10歳ほど年長で34会でも活躍されている。また企業倫理・CSRに関する碩学であり、現在も多くの学会や各企業への指導活動に奔走されている。「精力的に」という言葉がこれほど当てはまる方を知らない。

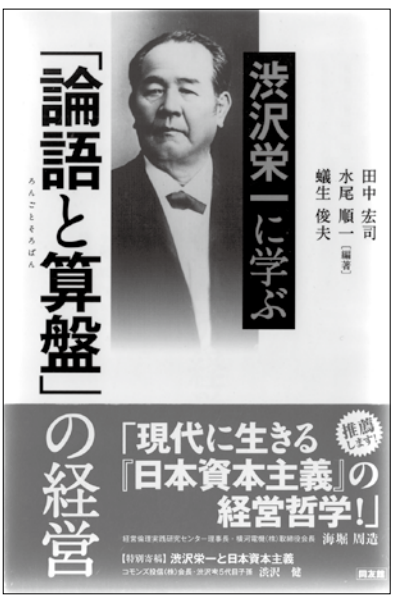
仕事の現役を終わったわれわれにとつてもその生活のなかでいろいろな意味で「企業」というものから離れることは出来ないだろう。その点でもこの本は良いガイドになろう。

前述の2著においても多くのページを数多くの企業の実例を経営理念からスタート、その施策を具体的に述べており、単に該企業のガイドブックを軽く読んだだけではまともめられず、おそらく何日間かの企業訪問(視察、聴取、対談)によつて書かれたもの

ではないか。それだからこそ田中さんの著作は「ハンドブック」として役立つのだ。また著作にあたって「共著」というだけでなく多くの研究者や企業人が協力して仕上げていることも田中さんの著作をさらに信頼ができるものにしていく要因だ。

今回の「渋沢栄一」で感じるのは氏が心から渋沢に惚れ込んでいっていることだ、氏はお会いするたびに渋沢の話をしてくれる。それだけ渋沢への惚れ込みエネルギーを感じられる1冊である。それでもこの本は渋沢の紹介本ではない。渋沢のパワーを与えてくれる本なのである。渋沢という人物についてはたまたま43会で15年に渋沢の生家を訪ねる機会があった。その時にはあらためて渋沢の偉大さを知ったものであった。

研究に関わる著作は多く、代表的なものでも「実践―コンプライアンス」「ビジネスマンのためのCSRハンドブック」「三方よしに学ぶ―人に好かれる会社」など枚挙にいとまない。今回出版された標記の著作は田中さんを含む3人による共著、「渋沢栄一」をモデルとして経営者やビジネスマンに対する的確なアドバイスのまとめである。



いま読売新聞(土曜日)に「スライ論語」が連載されている。「論語」はいつの時代にも私たちの生活にとつて心

の柱となり続けよう。田中さんはますますお元気に活躍中である。著書、講演などによつて企業人にコンプライアンスの大切さを強く訴え続けている。現代の企業人あるいは政治家たちにも読んでほしいと思うのはかなわぬ夢だろうか。今年7月のわれわれの総会では田中さんが講演をされることになっている。楽しみである。 ※著書のなかの「三方よしに学ぶ―人に好かれる会社」では「近江商人」のことが述べられている。続けること、変えてゆくことの大切さは企業だけでなくひと、社会にわたつて必要なことなのである。

清水 正



町田さんは二科展(新国立美術館)にも「森の声」を出品・入選。最近ではうぶすな美術館(上野の森美術館)に2点(森の声、返子マリナー)を展示した。

町田さんとは二科展(新国立美術館)にも「森の声」を出品・入選。最近ではうぶすな美術館(上野の森美術館)に2点(森の声、返子マリナー)を展示した。

編集後記 久しぶりの「白門43会報」の発行になりました。

町田さん、マネ、ミレーらに並ぶ快挙

「ル・サロン」はマネ、ドラクロワ、ミレー、ルノアール、モネ、セザンヌなどの巨匠が出品した、350年の歴史をもつ。今回2月にパリの「グラン・パレ」(1900年、パリ万博のメイン会場)に展示された。

町田さんは二科展(新国立美術館)にも「森の声」を出品・入選。最近ではうぶすな美術館(上野の森美術館)に2点(森の声、返子マリナー)を展示した。

町田さんとは二科展(新国立美術館)にも「森の声」を出品・入選。最近ではうぶすな美術館(上野の森美術館)に2点(森の声、返子マリナー)を展示した。

町田さんとは二科展(新国立美術館)にも「森の声」を出品・入選。最近ではうぶすな美術館(上野の森美術館)に2点(森の声、返子マリナー)を展示した。

新版「会員名簿」を発行

16年8月、A4版、横組の見やすいタイプの会員名簿の新版を作成、全会員に配布しました。どうぞご利用ください。 今回の特色として会員の相互懇親活動に役立つよう①メールアドレスを掲載②卒業時のクラス名を掲載しました。

訃報 次の会員が亡くなりました。ご冥福をお祈り申し上げます。

平成二十三年三月逝去 上田有司さん 理工学部工業化学科出身 神奈川県中郡在住

- 平成二十六年六月逝去 浦川順夫さん 法学部法律学科出身 東京都文京区在住
平成二十六年七月逝去 前田昌則さん 法学部法律学科出身 東京都板橋区在住
平成二十六年十月逝去 小野寺芳彦さん 理工学部工業化学科出身 岩手県関市在住
平成二十六年十一月逝去 本山忠孝さん 理工学部土木工学科出身 千葉県印西市在住
平成二十七年十一月逝去 大野克夫さん 法学部法律学科出身 埼玉県越谷市在住
平成二十七年十二月逝去 松田正彦さん 経済学部経済学科出身 東京都府中市在住
平成二十八年六月逝去 河口靖喜さん 法学部法律学科出身 千葉市稲毛区在住
平成二十八年二月逝去 星野政平さん 法学部法律学科出身 東京都葛飾区在住
平成二十九年四月逝去 白木尚武さん 商学部商業・貿易学科出身 山口県山口市在住
嶋守正道さん 法学部法律学科出身 青森県八戸市在住